

## 平成17年度協働事業提案 公開調整記録

### No. 7 空き店舗活用による子どもの居場所づくり【2回目】

と き 平成17年7月12日(火) 10:30~11:30

ところ 大和市役所会議室棟203会議室

参加者

- ・ 提案者：館合さん、山本さん
- ・ 関係課：産業振興課（高橋、郷家） 児童育成課（山口、青木）
- ・ 協働推進会議委員：小杉委員、杉山委員、玉木委員
- ・ 事務局：市民活動課（小山、鈴木）

---

#### 【提案者の想い・調整の主な内容】

##### 提案者

- ・ 児童育成課には情報発信をお願いしたい。
- ・ どのくらいの規模の拠点を児童育成課は考えているか。
- ・ 今年度提案については、空き店舗の活用ということで提案している。空き店舗活用にこだわっていききたい。
- ・ 空き店舗活用として事業計画を作成してきた。事業内容としては、しんちゃんハウスで現在行っている事業をベースに確実にできるものをあげている。
- ・ しんちゃんハウスとしての資金は、さまざまな助成金でまかなうことを想定している。
- ・ 居場所作りと保育事業をあわせて行っていききたい。しかし、基本は居場所作り。
- ・ 居場所へは、親と子どもと一緒に参加することを考えている。
- ・ 商店街の方々と一緒に勉強しながら、自分たちのノウハウを提供できるのであれば提供していききたい。
- ・ 地域には特殊性がある。その地域で作り上げることのできる形を築いていききたい。
- ・ 今年度は、土台作りをしていききたい。
- ・ 若いおかあさんは、ショッピングセンターは行くが、商店街で買い物はしない。どこのお店がおいしいという情報や、どんな材料を使っている商品かということ伝えて、商店街への人の流れを作っていきたい。

### 産業振興課

- ・ 商店街と時間をかけて話し合いをし、取り組んでいく必要がある。
- ・ これまで、空き店舗活用事業はあったが、必ずしも成果を挙げていない。
- ・ 商店街の方から取り組みたいという気持ちにさせるくらい魅力のある提案にならないと、難しい。
- ・ そういう提案を練り直すために、産業振興課からも情報提供していきながら、話し合いを通じて一緒に考えていくことの協力はできる。
- ・ 商店街との打ち合わせをする機会があるので、その場でこの話を紹介し、商店街としての感想や、どんなアイデアがあれば商店街として取り組んでいかれるかということを知りたいと考えている。
- ・ どの商店街に狙いを定めていくか、またその商店街に空き店舗があるか、さらに、その商店街が、今どのような施策に取り組もうとしているかを知ることが大切である。

### 児童育成課

- ・ 前回の調整会議を受け、ニコニコ広場（子育て支援センター）を想定しながら現場を見た。
- ・ 市としては、子育て支援センターの北部版をつくりたいと考えている。しんちゃんハウスの場所では、少し小さいと思う。
- ・ 広報等を出して、集まった人たちが入ることができるくらいを想定している。月に20名～30名の集客ができることが必要。できれば50名程度が利用できるようなものを考えている。
- ・ 建物については、常識で考える設備は必要である。特別な施設を備える必要はない。
- ・ しんちゃんハウスがプレ事業として行っていくものを、協働事業として取り組んでいくのか、別の形で取り組んでいくのか。

### 協働推進会議委員

- ・ 空き店舗にこだわるのかは明確にした方がよい。その方が応援しやすい。
- ・ 商店街がチャーミングだと感じる提案が必要。
- ・ 現代においては、商店街に子ども、高齢者がいてコミュニケーションをすることができる環境が必要。
- ・ 商店街にとってもメリットのある取り組みが必要。
- ・ 協働事業は市と市民とが対等に切り結んでいくもの。しんちゃんハウス今の仕組みの中で、児童育成課がしんちゃんハウスに協力できることは協力していただいて、その中で、空き店舗活用への歩みを進めていってはどうか。

**【確認事項】**

- ・ 提案者の考え方として、空き店舗の活用という軸は、変えない。
- ・ 産業振興課としては、商店街の空き店舗の活用についてすぐに協働事業とすることは難しいが、商店街との情報提供・共有をしていきながら提案者と一緒に考えていくことはできる。
- ・ 児童育成課とは、今の仕組みの中で協力できる範囲の協力体制をとっていく。

**【記録者：市民活動課 鈴木】**